# 「学力と心身の発達」について

河合靖久

## はじめに

「学力とは…？」と改めて問われると、時代や環境により各人各様のとらえ方が可能である。

一方、「学習指導要領」（文部・文部科学省）が一般的に、教育内容・量・方法等の学校教育を規定している。各年代の変遷と問題提起については、前掲5、「指導要領の変遷と…」（和澄利男）を参照されたい。

私たちの望む学力と心身の発達の具体的提示は、子どもたちとの実践という形で各号の随所に散りばめられているが、本稿では「学力」をテーマとした特集の

①学力を高める教育実践とは（19号）

②子どもの「学力の危機」とは何か（67号）

③新潟県の「学力調査」と結果の公表（82号）

④問われる子どもの学びの質と「学力」（114号）

を主に取り上げた。

## 1、学力を高める教育実践とは

（19号、1988年）

○ゆっくり根を張れ柿の種～変わる農村での親と教師の子育て教育（共育）～（八幡明子）

農業人口率四九％の紫雲寺町で、子どもの帰宅時の留守家庭が二九％（小学校六年）・二四％（中学二年）、留守番をしている人は、祖母七〇％・祖父三五％。農業従事者が激減し、母親が外で働くようになり、子どもたちのテレビ視聴とファミコンの時間が増えている

（町学校教育研究協議会の調査データー）。

子どもの自ら生きていく力、自立心を育てることの大切さを親と教師が共有し、生活を見つめ子どもの生活に関心を持つことが、これからの子どもの人間らしい発達を保障する上で大切…と確認。親の願い、地域の願いは『子どもたちにたしかな学力をつけさせたい…』ことなので、子どもの日常の様子が見える通信活動や、生活をみつめ綴る力を、朝作文や詩の広場の場で練習。さらに長く詳しく書ける指導も…。学校体制の中での縦割り集団づくりも取り入れた…

○畑に太陽と水と肥料を与えるように

工業高校における　英語の授業　（井浦和子）

「英語大嫌い」の鎧をしっかり着込む工業高校生に「英語もやってみると結構面白い」との気持ちを引き出すために全精力を傾ける。最初の一歩がとても大切…。学習の目的が持てない生徒達の人間的発達の課題から教材を編成していく…友達関係も薄い生徒間で、自分の存在をＰＲする「自己紹介」。「私の一日」を英文にし、基本動詞、自動詞と他動詞を意識させる。

体育祭等で一人ひとりの活躍をメモし、登場させる「疑問文のプリント作成」英文の指示で「調理・折り紙・工作など」英文に忠実な作業や出来栄えを評価。体験を通した言葉は定着し、成績の格差が狭まる。

修学旅行先（広島または長崎）で、「外国人との交流」を課題に…。（原爆という）人類の課題について簡単な会話ができるように必要な単語をここで教える。

内心「無理かなあ」と弱気になったウィ・アー・ザ・ワールドの合唱も、教科の枠を超えた教師たちの協力でビデオ編集が完成。卒業式当日、豚汁パーティー後、肩を組んでみんなの大合唱に…。

## 2、子どもの「学力の危機」とは何か

（67号、２００１年）

いわゆる「ゆとり教育」の後、学校五日制の実施時。

○子どもの「学力」問題を考える（片岡弘）

「分数のできない大学生」（西村和雄）に象徴された、子ども・青年の「学力低下」は事実だったが、一方の文科省は「日本の子どもたちの学力は概ね良好」との従来の見解を崩さず、論争は混迷を重ねた。

文科省の「概ね良好」の根拠となったＩＥＡ調査と同じ資料で分析し、形式的な問題に対する正答は得ら

れたが、「イメージや概念を使いこなして筋道をたてて考える」問題の正答率は芳しくなかった。（数学教育研究者・増島高敬の分析）

当研究所の独自の調査「学校・勉強に対する意識」でも、小学一年生は調査実施の九～十月時点で、国語と算数の「好き」より「嫌い」が上回っていた。

この時期いわゆる「新しい学力」が宣伝され、「関心・意欲」が重視された結果がこれであり、これまで以上に「基礎的・基本的な学力」の格差が広がることが危惧された。

○小学生の学力低下が起きてくる現実（桑名紀子）

今、学校は、市町村単位に「学力向上対策委員会」が設けられ…学力向上対策の一つとして「朝学習」（教師が教室に来るまで、プリントやドリルを学習）に。他校では、「家庭学習」をメインに、各学年に相応した家庭学習の時間を設定…六年生なら六〇分、五年生は五〇分、四年生は…。それを伝え聞いた別の小学校では「うちは、プラス十分で行こう」となる。周辺の県北地域にも「いじめ・不登校」や「学級崩壊」、「児童虐待」など深刻な問題…授業についていけない子ども、授業が成り立たない学級が。…一律に「時間外」学習へと追い込んで…本当の「学力向上」に繋がるのか…？

子どもも教師も時間に追い立てられ…忙しい学校生活を過ごす。

…「学力テスト」結果が、一欄表になって流され…。下越教育事務所の指導主事らの直接指導で地域ごとの対策委員会が「学力向上推進計画書」を作成、「意図的に繰り返し指導した内容は定着が…。応用的な内容や、少し難しい問題は解けない子が多い。学習内容定着の家庭学習の時間が不足…」…の対策として・家庭学習を強化・繰り返し習熟・宿題の形で徹底…・評価の工夫・毎日、算数・数学をやる。と、なって…「目標値」が設定され「各領域の達成率」にも言及している。

これから学校では、年間１０５時間ていどの「教科でもなく特活・道徳でもない総合的な学習」が…。身長も体重も言葉の発達も遅れているＭ子ちゃんを来年の学力テストで泣かすわけにはいかない…。研究発表の日も間近かに迫り帰宅するのは夜九時かそれ以降…辞めてなるものか。と、自分を励ます…毎日が…

○中学生の学力が危ない！（小林朗）

新潟県の「学力向上」は高校受験、大学受験の成果を上げることが最大の課題になっている。…小中学校教員採用試験の小論文テーマに「学級懇談会で、保護者から…親としては国語や算数（数学）が大事だと思うが、本格的に始まる総合的学習の時間について先生の考えを…」との質問が出され＞県教委も「学力低下」への対応を模索していた。

週休二日制になるため総時数は減少するが、土曜の二時間分だけで、週二八時間になる。

各教科別にみても、教科の体系を無視した内容の削減で、社会、数学、英語、芸能科のどれも危うい。

学力を文科省は「学び方の基礎基本」といい、学び方を強調、ロールプレイやディベートの訓練で「学び方」だけ教えて、学習についてこれるスーパーエリートだけの育成を目指している。私たちが子どもたちにつけたい基礎基本は知識である。中学生は、基礎的な知識を利用して考え、共通な教養を形成する。

○理科学力の危機　自然科学をすべての国民のものに

（小島寿夫）

現在の高校教育は一部進学校とその他の普通高校や職業高校との学校格差が大きくなり、極端な二極分化に。…県教委の大学進学対策事業により進学校は事実上の予備校化がすすめられ、その他の普通高校や伝統校以外の職業高校では生徒指導に追われ、毎日の授業に苦労する状況…。

高校学習指導要領では理科の必修は二科目のため、物理・化学・生物・地学の全領域を学ぶことは事実上不可能…物理を学ばぬ理系学生や生物をやらぬ医学部学生が…。進学校では…センター試験対策のため、実験も少なく、暗記式の勉強やパターン化された問題解答の技術をみがくことに終始…自然科学の神髄を学ぶ喜びからはほど遠い、受験技術の学習になっている。

小学校低学年の「生活科」導入で自然や社会の科学的認識の基礎を育てないで、情緒的・規範的な決まりを教える…。指導要領は…あれこれの自然現象を系統性もなく無原則的に教えるという特殊な立場で構成…子どものあふれるような自然への好奇心や探求心を抑え込み、細切れのガラクタ教材を積み重ね、多くの「理科嫌い」を生み出してきた。

中学でも…高校受験という重圧のもとで詰め込み、

暗記式の勉強はいっそう強化される。
・自然科学の基礎・基本は教科書になくても教えよう
・「楽しくわかる理科」で理科嫌いをなくそう
○大学生の学力低下問題（小林昭三）
「新潟県の公立高校生の家庭学習時間は、一日三〇分未満が半数以上、二年生は二人に一人がゼロ」（新潟日報―県内５０００人余名の高校生の回答）
日本は世界でも「勉強しない国」になった。国際的な調査でも科学力低下の実態が…。重大な問題は、理科や数学が「好き、大好き」が世界最低レベル…。
日本における「知的な営みの危機」は、大学入試や日本の教育システムとそれを規定する「学習指導要領」等々が相互に悪循環をもたらし、縮小再生産をしている。数理分野の時間数の極端な減少は、週五日制移行の影響もあるが、生活科や総合的な学習の時間の新科目の増加による影響が大きい。

## 3、新潟県の「学力調査」と結果の公表

（82号、２００５年）

学力テストの害毒を拡散するひとつに「結果の公表」がある。その公表が、子どもと教育に与える弊害は計り知れない。以下は東京都の実態報告の一例である。
○足立区における学力テスト結果の公開
（橋本敏明、東京都教組足立支部執行委員長）
04年、６月、東京都教育委員会は、一斉学力テストの区市町村別平均点と順位を発表…その結果…①自分の住んでいる地区と学校に誇りが持てない。②学力テストのやり方や内容の不適切さ③個人に答案用紙を返さないので自分の間違いがわからない…④各校の業者テストを廃止させ、「学テ」は業者委託で生徒の個人情報を業者が把握する矛盾。アンケートの分析と採点を外部業者に委ね…受けた生徒の学習状況の細部まで業者が把握する。⑤行政の側からの癒着を生み出す…。さらに、公表の結果①区市町村ごと・学校ごとの平均点・順位だけが一人歩きし、一喜一憂―②教師の世界に競争原理を持ち込み…「あの先生のせいで」となり、互いに責め合う関係が…③「良い学校（子）競争」の中で…教師の良心が奪われようとしている…。「来年は〇〇は休ませた方がいいな！」とか「あいつさえいなければ」…④テストの内容そのものに問題があるのに…テストの結果を前提として、一方的に授業改善プ

ランの作成を学校に押し付け…二学期制で、夏休み中にも習熟度別授業や補習授業、自習教室など増やされ…、結果の公表は、「百害あって一利なし」と…指摘された。

○県教委が公表した「学力調査」の結果についての覚書～結果をどう扱い、これからどうするのか～（八木三男）

成績の悪さを「家庭学習の不足」など…単純に子どもの責任に帰すのは最悪。…教員・学校・行政が授業方法や教育条件など自己分析的に…。テスト問題を公表し、教員を主体的に調査分析に参加させる…

## 4、問われる子どもの学びの質と「学力」

（114号、2014年）

○子どもの主体的・自立的な学習と「まなび」の質

（本田伊克）

国家と地方行政は、財政効率優先主義と競争主義に基づく学校教育の目標・内容の管理と統制の動きを強めている。…教育条件の整備も配慮もないまま、目標の達成と説明責任だけを教育現場に押し付けている。

とりわけ、学力テストの平均点や正答率ランキングをめぐる子ども間、地域間、学校間の際限ない競争によって、目的や内実なき形式的で断片的な学習を強制する仕組みが広がっている。国による「全国学力テスト」だけではない。新潟県では、webテストに…小中学校が参加し、半ば強制的に提出を求められる…

## おわりに

学力問題は、「学習指導要領」や関連法規の規制が強く主体的・創造的に検討し難い。国民共通の素朴な願いに添い「子どもは宝」との議論が必要と痛感した。

なお、学力論議の中に、伝統食に光を「…地域の味が…旬の味が…そして家庭の味が…。何千年の…人体実験を経て今日に伝えられた…、人間の知恵の結晶…」（坂本典子、35号）などの文化性も加えたいと思った。

「学力」の記述が多くなったが、子どもの心身の発達については、地域と教育力（13号）や、新潟県の子育て百科96にいがたの子ども白書、新潟県の子どもの心身の発達（51号）などに、のびのびと自然や地域・社会の中でたくましく育つ子どもたちの姿がみられた。

（かわい　やすひさ・所員）